

W-2-2

3 種類の *kko*—接辞と慣習的推意の接点—

木戸 康人
九州国際大学

1. はじめに

形態論の分野の中でも派生形態論では、様々な語形成 (word formation) の研究が行われている。接辞付加 (affixation) が関わる語形成では、接頭辞 (prefix) と接尾辞 (suffix)、接中辞 (infix) が語基 (base) に付く。接頭辞と接尾辞に関しては日本語や英語でも多く観察される。

- (1) a. 接頭辞：非対称, 再検討する, unkind, reexamine, etc.
b. 接尾辞：甘さ, 甘み, kindness, examination, etc. (竝木 2013)

一方、接中辞はオーストロネシア語族に多く見られると言われている。French (1988: 24-25) によると、タガログ語の接中辞 /-um-/ が、最初の音節頭 (onset) の後に挿入されると基本形 (BASIC: BAS) / 完了相 (COMPLETIVE: COM) を表すが、最初の母音と子音が重複 (reduplication) を起こし、かつ、最初の子音の後に /-um-/ が挿入されると継続相 (CONTINUATIVE: CON) を表す。

- | | |
|----------------------------------|--|
| (2) a. stem: bilih ‘to buy’ | b. stem: grádwet ‘to graduate’ |
| b-um-ilih ‘X buys’ (BAS) | gr-um-ádwet ‘X graduates’ (BAS) |
| b-um-ilih ‘X bought’ (COM) | gr-um-ádwet ‘X graduated’ (COM) |
| b-um-i-bilih ‘X is buying’ (CON) | g-um-a-grádwet ‘X is graduating’ (CON) |

日本語や英語にも接中辞は観察される。例えば、促音「っ」や撥音「ん」、*-fucking-*、*-bloody-* 等は、強意 (intensifier) の機能を語基に付け足すものだと考えられている (那須 2004, Kalin 2021)。

- (3) a. ぱったり, ぼっかり, どっしん, ぱっちん, ぐんにやり, ふんわり, じんわり, etc. (那須 2004)
b. abso-fucking-lutely, a-fucking-symptomatic, Cali-fucking-fornia, corona-fucking-virus, etc. (Kalin 2021)
c. fan-bloody-tastic, any-bloody-body, Singa-bloody-pore, my-bloody-self, e-bloody-nough, etc.

2. 3 種類の *kko*

本発表では、日本語に次に示す 3 種類の *kko* (っ子/っこ) という拘束形態素があることを示す。

- Type 1 語彙化した「っ子」
- Type 2 指小辞としての「っこ」と否定極性項目としての「っこ」と接中辞としての「っこ」
- Type 3 「ごっこ」を語源とする「っこ」

2.1 語彙化した「っ子」(Type 1)

1 つ目の *kko* は「X の子」の意味を残した「っ子」である。¹ X には場所や時代が関係する名詞や子供の属性を表す名詞がくる。下線は Google 検索によって得られたデータである。²

- (4) a. 場所+っ子 江戸っ子、地方っ子、都会っ子、ロンドンっ子、九州っ子、土地っ子、
団地っ子、宮っ子、神戸っ子、わか杉っ子、宮城っ子、田村っ子、媛っ子、等
b. 時代+っ子 現代っ子、輝く未来っ子、等

¹ 「っ子」は「御家っ子」のように「の子」の意味を表す「っ子」が語彙化したものとする。もし「っこ」の語源が「の子」だったのであれば、「ん子」と撥音便化しているはずなので「の子」が語源ではないと考える。

² 食品の商標名としても使用されている。例：たべっ子どうぶつ、ふきっ子おやき、クルミっ子、もつっ子、等

3つ目は、「ある」が現れた場合でも否定要素が「ません」や「まい」、「わけない」が続けば文法的な文になること、また、その「ある」と「っこ」の間には格助詞が現れないことである。

- (11) a. 陰キャの太郎が笑いっこ (*に/*が) {ありません/あるまい/あるわけない}。
b. 今日、雨が降りっこ (*に/*が) {ありません/あるまい/あるわけない}。
c. そんな小細工じゃ太郎は驚きっこ (*に/*が) {ありません/あるまい/あるわけない}。

2.2.3 接中辞としての「っこ」

生産性は高くないが、「っこ」という接中辞があると考えられる。接中辞としての「っこ」は NPI としての「っこ」が表す否定の度合いを強める機能から派生したものであると考える。

- (12) a. 動詞 落っこちる (<落ちる)、落っことす (<落とす)、
引っこ抜く (<hik-kko-nuku<hiki-kko-nuku)
b. 掛け声 よっこいしょ (<よいしょ)
c. NPI 人っこ一人 (<人一人)

(12) はどれも語の内部に「っこ」が挿入されているが容認される。よって、「っこ」は接中辞であると考えられる。例えば、(12c) は、「人」のみや「一人」のみでは NPI として機能せず「人一人」で NPI として機能する。また、「人っこ一人」における「っこ」は否定の意味を強めている。この「っこ」の機能は、(3) に示した接中辞としての「っ」や *-fucking-*、*-bloody-* と同じであると考えられる。

2.2.4 接中辞と NPI としての「っこ」の共起関係

NPI としての「っこ」と接中辞としての「っこ」が区別されるべきものであることを裏付ける。これらの「っこ」は、(13) に示すように共起可能であることから、それぞれ異なる拘束形態素としての地位を得ていると考える。

- (13) a. 太郎が崖から落っこちっこない。 b. 太郎が大きなカブを引っこ抜きっこない。

2.3 「ごっこ」を語源とする「っこ」 (Type 3)

本節で扱う動詞の連用形に付く「っこ」(Type 3) は、Type 1 と Type 2 とは異なる。世界の民謡・童謡研究会 (1988-2022b) によると、Type 3 の「っこ」の語源は「ごっこ」であり、「ごっこ」の語源は古語の「こくら」と「ごく」である。

- (14) a. 「こくら」(「ごくら」「こぐら」とも) 動詞の連用形、また、まれに名詞などに付いて、
競争する意を表わす。くらべ。くら。ごく。 ([精選版] 日本国語大辞典)
b. 「ごく」(「こくら」の変化した語) 近世の上方語。動詞の連用形に付いて、競争の意を表わす。
くらべ。くら。ごっこ。「走りごく」「にらみごく」など。[随筆・守貞漫稿 (1837-53)]
([精選版] 日本国語大辞典)

さらに、世界の民謡・童謡研究会 (1998-2022b) は、「こくら」と「ごく」は「競争」の意味であるにもかかわらず、なぜ「ごっこ」に「真似事」の意味があるのかという問いに関して、子供の遊びの中でも「チャンバラごっこ」や「戦争ごっこ」のように、大人の真似と「競争」の要素があるものに「ごっこ」が使われ、それが「真似て遊ぶこと」として使われるようになったのではないかと考察している。一方、「ごっこ」が持つ「競争」の意味は「っこ」に継承されたのではないかと考察している。

世界の民謡・童謡研究会 (1998-2022b) による考察が正しいと仮定すると、Type 3 の「っこ」は「ごっこ」が語源であったと考えられる。つまり、Type 1 の「っ子」と Type 2 の「っこ」は多義であるのに対して、Type 3 の「っこ」は Type 2 の「っこ」と同音異義であるということになる。

Type 3 の「っこ」には次の4つの特徴があると考えられる。

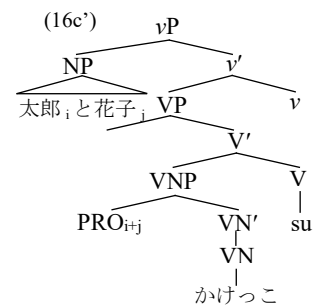
- (15) a. 「遊び感覚で誰かと何かを一緒に競争すること」を表す。
 b. 「っこ」は Split Control の 1 つである。
 c. 意味的に非能格動詞と他動詞に付くが、非対格動詞に付かない。
 d. 「っこ」が動詞の連用形に付くと、Verbal Noun (VN) になる。

(15a) の「っこ」の意味は、複合動詞「V+合う」の「誰かと何かをお互いにすること」という意味と類似している。共通点は「一緒に同じことをすること」である。一方、相違点は「遊び感覚で競争するかどうか」であると考えられる。(16a) は遊び感覚ではないが、(16b) は遊び感覚であると解釈できる。

- (16) a. 昨日、ジョンとビルが殴り合った。 (Kosuge 2014: 74)
 b. 昨日、ジョンとビルが殴り合いっこをした。 (筆者作例)

次に、(17b) に示したように「っこ」を含む文は PRO の複数の先行詞が文中の違った場所に現れることが可能な Split Control (Landau 2013) の 1 つであると考えられる。(17b) と同様に、「っこ」を含む文の PRO は (17d) のように違った場所に現れている先行詞を取ることが可能である。

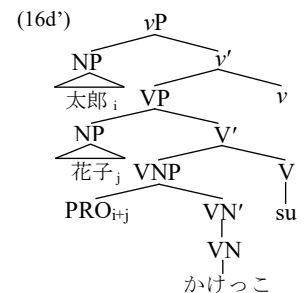
- (17) a. Harriet_i and Betty_j argued about [PRO_{i+j/*i/*j} visiting you]. (Landau 2013: 4)
 b. Harriet_i argued with Betty_j about [PRO_{i+j/*i/*j} visiting you]. (ibid.)
 c. 太郎_iと花子_jが [PRO_{i+j/*i/*j} かけっこ]をした。 (筆者作例)
 d. 太郎_iが花子_jと [PRO_{i+j/*i/*j} かけっこ]をした。 (筆者作例)



さらに、(15c) の具体例が (18)、(15d) の具体例が (19) である。

- (18) a. 他動詞： 教え (合い) っこ、(毛布を) 分けっこ、等
 b. 非能格動詞： かけっこ、笑いっこ等
 c. 非対格動詞： *降りっこ、*ありっこ、*切れっこ、*驚きっこ、等

- (19) a. 太郎が花子と毛布を分けっこした。 cf. 太郎が英語を勉強した。
 b. 太郎が花子と毛布の分けっこをした。 cf. 太郎が英語の勉強をした。



3. Type 2 と Type 3 の関係性

3.1 共通点：聞き手の制限

Type 2 と Type 3 の「っこ」が使われる際、話し手と聞き手が近い間柄かどうか関係している。

- (20) (相手に向けて) {近い人/*他人} に向けての場合
 a. Type 2 タオル落っことしてますよ。 b. Type 3 ジョッキ 10 杯は飲めっこないですね。

- (21) (独り言) {近い人/*他人} が聞き手として目の前にいる場合
 a. Type 2 よっこいしょ。 b. Type 3 それはできっこないでしょ。

3.2 相違点：とりたて詞との共起関係

NPI としての「っこ」(Type 2) と Type 3 の「ごっこ」を語源とする「っこ」は、連用形に付く点で共通している。しかし、とりたて詞との共起関係に違いがある。Type 2 の場合、(22) のようにとりたて詞と共起できないのに対して、Type 3 の「ごっこ」を語源とする「っこ」は (23) のようにとりたて詞と共起可能である。この振る舞いの違いは、(22) と (23) では内部構造が違うことを示唆している。

- (22) a. 陰キャの太郎が笑いっこ (*さえし) ない。 cf. 陰キャの太郎が笑い * (さえし) ない。
 b. 今日、雨が降りっこ (*はし) ない。 cf. 今日、雨が降り * (はし) ない。
 c. そんな小細工じゃ太郎は驚きっこ (*すらし) ない。 cf. ...太郎は驚き * (すらし) ない。

(23) a. 太郎が花子と毛布を分けっこ (さえ) した。

b. 太郎が花子とかけっこ (さえ) した。

4. 接辞と慣習的推意の接点

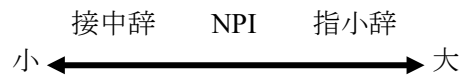
Type 2 と Type 3 の「っこ」はそれがなくても命題内容は変わらないことから、「っこ」が特定の語に慣習的に結びついた慣習的推意 (conventional implicature: CI) (Grice 1975, Potts 2005) として機能していると考えられる。

(24) 慣習的推意

a. Type 2 指小辞としての「っこ」: かわいらしさ + (「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ
NPI としての「っこ」: 否定の強意 + (「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ
接中辞としての「っこ」: 強意 + (「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ

b. Type 3 「ごっこ」を語源とする「っこ」:
遊び感覚で競争すること + (「ごっこ」の意味から連想される) 子供っぽさ

(25) Type 2 における (「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ の度合い



(24a) に示すように、Type 2 の 3 つの「っこ」はそれぞれ異なる慣習的推意がある。また、(24) のすべてにおいて「(「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ」という慣習的推意があり、その「子供っぽさ」は Type A の語彙化した「っこ」の意味からどの程度、意味の希薄化 (semantic bleaching) が起きているかによって違っていると考える。具体的には、(25) に示すように、指小辞としての「っこ」が最も「子供っぽさ」の意味を残しているのに対して、接中辞としての「っこ」は最もその意味を残していないと考える。

次に、(24b) の Type 3 の「っこ」は「ごっこ」を語源とするため、「遊び感覚で競争すること」という慣習的推意があると考えられる。Type 2 と同様に、Type 3 の「っこ」にも「子供っぽさ」の慣習的推意があると考えられるが、それは「(「っこ」の意味から連想される) 子供っぽさ」ではなく、「子供が遊びの中で大人の真似をしたこと」という「ごっこ」の語源に起因していると考えられる。

(24) と (25) の具体例が、(26) である。

(26) a. 隅っこ (Type 2: 指小辞)

At-issue: a corner

CI: The speaker acts childishly.

b. 太郎にそんなことできっこない。 (Type 2: NPI)

At-issue: Taro cannot do such a thing.

CI: The speaker emphasizes on negation and acts childishly.

c. よっこいしょ (Type 2: 接中辞)

At-issue: oops-a-daisy

CI: The speaker emphasizes on one's shout and acts childishly.

d. 太郎と花子が追いかけてっこをした。 (Type 3)

At-issue: Taro and Hanako ran together.

CI: The speaker competes playfully.

例えば、(26b) の「できっこない」の場合、「できない」という真理条件的意味 (at-issue meaning) に加えて、「話者が否定を強調し、かつ、子供っぽく振舞う」という慣習的推意を導出する。

5. まとめ

本発表では、日本語に3種類の *kko* (っ子/っこ) という拘束形態素があることを示した。

- (27) Type 1 「子供」の意味を保持した語彙化している「っ子」
Type 2 (i) 指小辞としての「っこ」と (ii) NPI としての「っこ」と (iii) 接中辞としての「っこ」
Type 3 「ごっこ」を語源とする「っこ」:
(i) 「遊び感覚で誰かと何かを一緒に競争すること」を表す。
(ii) Split Control の1つである。
(iii) 意味的に非能格動詞と他動詞に付くが、非対格動詞に付かないという特徴を持つ。
(iv) 「っこ」が付くと、Verbal Noun (VN) になるという特徴を持つ。

最後に、接辞と慣習的推意の接点を考えた。Type 2 と Type 3 の「っこ」はそれぞれ異なる CI を示していることを記述した。

本発表は、日本語に *kko* という拘束形態素が3種類あることを包括的に示しているだけでなく、日本語に「っこ」という接中辞があることを新たに示し、また、その接中辞が英語の接中辞 *-fucking-* や *-bloody-* が表す強意の機能と類似していることを示した。

さらに、*kko* には、統語構造が関係するものとそうでないものがあることを明らかにした。具体的には、Type 1 と Type 2 (i), (iii) は統語部門よりも前、すなわち、語彙部門で語形成が行われると考えられるのに対して、Type 2 (ii) と Type 3 は「っこ」が Syntax での文法現象に関与していたことから統語部門で語形成が行われることが示唆された。本発表は語彙部門だけでなく統語部門にも語形成を認めるモジュール形態論 (影山 1993) を、*kko* という拘束形態素の記述一般化の観点から支持するものである。

謝辞

本発表は若手研究科研費 (課題番号: 19K13161、研究代表者: 木戸康人) の助成を受けている。本稿を執筆するにあたり、本ワークショップメンバー (中谷健太郎先生、日高俊夫先生、澁谷みどり先生、森山倭成さん) に加えて、阪大神大勉強会のメンバー (山口真史さん、井原駿さん、水谷謙太さん、平山裕人さん、中野晃希さん) に示唆に富むコメントを多数頂いた。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- French, K. Matsuda (1988) *Insights into Tagalog: Reduplication, Infixation, and Stress from Nonlinear Phonology*. Arlington: University of Texas and Summer Institute of Linguistics.
Grice H. Paul (1975) Logic and conversation. In Peter Cole and Jerry L. Morgan (eds.), *Syntax and Semantics 3: Speech Acts*, 41–58. New York: Academic Press.
影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京: ひつじ書房。
Kalin, Laura (2021) On the (non-)transparency of infixes that surface at a morpheme juncture. Talk presented at the 2021 Princeton Symposium on Syntactic Theory.
Kosuge, Tomoya (2014) The syntax of Japanese reciprocal V-V compounds: A view from split antecedents, *English Linguistics* 31(1), 45–78.
窪蘭晴夫 (1995) 『語形成と音韻構造』東京: くろしお出版。
竝木崇康 (2013) 「形態論」三原健一・高見健一 (編). 『日英対照 英語学の基礎』31–59. 東京: くろしお出版。
那須昭夫 (2004) 「韻律接中辞と左接性—日本語オノマトペの強調語形成—」『日本語と日本文学』第38号, 1–14.
Landau, Idan (2013) *Control in Generative Grammar: A Research Companion*. Cambridge: Cambridge University Press.
Potts, Christopher (2005) *The Logic of Conventional Implicature*. Oxford: Oxford University Press.
小学館国語辞典編集部 (2005) 『[精選版] 日本国語大辞典 1巻「あ〜こ」』東京: 小学館。

ウェブサイト

- 世界の民謡・童謡研究会 (1988-2022a) 「どじょっこ ふなっこ 歌詞の意味 日本の童謡・唱歌/東北地方の民謡・わらべうたがルーツ?」 (<http://www.worldfolksong.com/songbook/japan/doyo/dojokko.htm>)
アクセス日: 2022年4月23日
世界の民謡・童謡研究会 (1988-2022b) 「ごっこ 語源・由来?どんな意味? 子供たちが真似して遊ぶ「ごっこ遊び」の「ごっこ」って何?」 (<http://www.worldfolksong.com/gogen/gokko.html>)
アクセス日: 2022年4月24日